

職藝学院 在校生・卒業生の声



福田 真也さん（環境職藝科 造園・ガーデニングコース 2年）
福井県 鯖江高校 卒）

職藝学院を選んだ理由

小さは頃から自然も絵を描くのも好きでした。庭師なら両方を生かせるのではと思い、この道を進むことに。そして、オープンキャンパスに足を運び、広大な森に囲まれたキャンパスが気に入り、職藝学院を選びました。

学校で学んでいることと学生生活

庭の造園木だけでなく、花壇植物や土作り、森の生態など幅広く学んでいます。実習も豊富で、春から秋は剪定（せんてい）、作庭、ガーデン管理などを、冬季は雪の重みで枝が折れるのを防ぐ「雪吊り」といって実習を行います。自分で考え実践する中で、徐々に技術力が身につく、今では短時間で作業ができるようになりました。



1年次最後の実習（進級製作）。チームで設計から施工まで、すべて自分たちで作庭（「モデル庭園」づくり）を行いました。

叶えた夢・目標

造園会社で実際の仕事を体験する校外工房実習（インターンシップ）があり、京都で2週間学びました。プロの実力を目の当たりにし、そのすごさには驚きもあり、自分自身の力不足を痛感しました。同時に、庭師として成長したいという思いはさらに強くなり、技術を高めたいと思います。



原田 凌輔さん（建築職藝科 建築コース卒業 平成30年3月）
京都府 京都成章高校 卒）

職藝学院を選んだ理由

近所に住む宮大工の方の現場を見る機会がありました。その時、伝統の技術で何もかも自分の手で築く仕事の姿に興味が高まり、この世界を目指しました。そして、見つけたのが、大工、宮大工につながる技術を学べる職藝学院でした。

学校で学んだことと学生生活を振り返って

現場に足を運び、実際の建物をつくる「実物実習」といって授業があり、住宅の物置小屋、納屋の新築や文化財（神社、地蔵堂等）の修復などを行う機会がありました。実際にお客様が使われるものなので、一つとして手を抜くことはできませんし、責任感があります。その分、技術も磨くことができます。実物実習は、とても貴重な勉強になりますね。



物置小屋新築実習（富山市）。



東屋腰掛待合の柱の修繕実習（富山県射水市）。

叶えた夢・目標

オーダーメイド住宅を手がける工務店（富山県）に就職し、念願だった大工として一歩を踏み出しました。人に認められてこそ、ようやく一人前だと思います。目標はお客様から「ありがとう」と言ってもらえる大工になること。そのために、もっとも腕を磨いていきたいです。

職藝学院 卒業生の活躍（技能五輪全国大会 家具部門で金賞受賞）

第54回技能五輪全国大会（平成28年10月）住催：厚生労働省・中央職業能力開発協会）の家具部門で金賞を受賞。



家具部門で金賞を受賞した安藤さん。技能五輪で製作課題「キャビネット」に取り組む。



職藝学院在学時の安藤さん。スツール製作。

安藤 哲平さん
（建築職藝研究科修了
平成28年3月）。
北海道 おと ねっつ美術工芸高校 卒）

技能五輪とは？
青年技能者（満年齢23歳以下）の技能レベルの日本一を競う技能競技大会（41部門）。

職藝学院を選んだ理由

高校で木工芸（家具）を学び、また建具にも関心を持っていました。そこで、オープンキャンパスに参加し、実習が多く、現役の職人から家具・建具を学ぶことができることを知り、職藝学院に入学しました。

職藝学院の入学から現在まで

安藤さんは、北海道出身。職藝学院建築職藝科建具コース入学（マイスタープログラム選択〔 〕）。卒業後、研究科（家具研究工房）に進学し、修了し、現在、地元北海道（株）ガーヂーカムワークスで家具製作に励んでいます。安藤さんからは、「今後も精進し、家具づくりに取り組んでいきたい」と抱負を語っていました。

『マイスタープログラム』：[本科2年]と研究科1年]を一体的に連結した3年制プログラム。